

1906. 4～

ロシア社会民主労働党第四回（統一）大会

第10巻 事項訳注 P541

1906年4月10～25日（4月23日～5月8日）に、スウェーデンのストックホルムでひらかれた。

大会には、党の57の地方組織を代表する表決権をもった112人の代議員と、評議権をもった22人の代議員が出席した。そのほかに、民族的社会民主主義政党的代表が、つぎのようにくわわった——ポーランド・リトワニア社会民主党、ブンド、ラトヴィア社会民主労働党から三名ずつ、ウクライナ社会民主労働党、フィンランド労働党から一名ずつ、それに、ブルガリア社会民主労働党の代表一名。ボリシェヴィキの代議員のなかには、ヴェ・イ・レーニン、イ・ヴェ・スターリン、エム・イ・カリーニン、カ・イエ・ヴォロシーロフ、エス・ゲ・シャウミヤン、エム・ヴェ・フルンゼ、エフ・ア・アルチーム（セルゲーエフ）、ヴェ・ヴェ・ヴォロフスキーその他がいた。大会の主要な問題は、農業問題、現情勢とプロレタリアートの階級的任務の評価の問題、国会にたいする態度の問題、組織問題であった。すべての問題について、ボリシェヴィキとメンシェヴィキとのあいだにははげしい闘争が行われた。レーニンは、農業問題、現情勢、国会選挙にたいする戦術の問題、武装蜂起の問題、その他について報告や演説を行った。

この大会ではメンシェヴィキが優勢であったため、大会の決議にはメンシェヴィキ的な性格をおびたものがあつた。いくつかの問題でメンシェヴィキ的な決議が通過した（農業問題、国会にたいする態度について、その他）。大会は、党員の資格にかんする規約第一条について、レーニンの定式を採択した。大会によって、民族的社会民主主義組織、すなわち、ポーランド・リトワニア社会民主党、ラトヴィア社会民主労働党を、ロシア社会民主労働党に加盟させ、また、ブンドの加入を決定した。

大会でえられた中央委員会は、ボリシェヴィキ三名、メンシェヴィキ七名からなつていた。中央機関紙編集局はメンシェヴィキが独占した。

大会の活動の分析は、レーニンとスターリンのつぎの著述であたえられている——レーニンの小冊子『ロシア社会民主労働党統一大会についての報告』（本巻、303～371ページ）、スターリンの小冊子『現情勢と労働党の統一大会』（邦訳の全集、第一巻、278～304ページ）、全集にたいする『第一巻の著者序文』（同、9～13ページ）。

第36巻 事項訳注 P840

第四回党大会では、議決権をもった代議員112名のうち、ボリシェヴィキは46票、メンシェヴィキは62票をもち、その他はどの分派にも属しない社会民主黨員がもつていた。メンシェヴィキがわずかではあるが優勢であったため、大会の諸決議は多くの問題についてメンシェヴィキ的なものとなつた。この大会にかんする党への『アピール』のなかで、レーニンはこう書いている。「誤っているとわれわれの考える、大会のこれらの決定にたいして、われわれは思想的にたたかわねばならないし、またたたかうであろう。だがそれとともにわれわれは、全党にたいして、われわれがあらゆる分裂に反対であることを宣言する。われわれは大会の諸決定に服従することに賛成する。……このような服従、このような思想闘争を、われわれはすべてのわが同意見者に呼びかける」（本全集、第10巻、300

ページを参照)。この大会では党の形式上の合同だけがおこなわれた。実質上は、ボリシェヴィキも、メンシェヴィキも、自分自身の見解を保持し、自分自身の独白の組織をもっていた。

『プロレタリー』

第四回（統一）党大会後にボリシェヴィキが創刊した非合法新聞。1906年8月21日（9月3日）から1909年11月28日（12月11日）まで、レーニンの編集のもとに発行されていた。『プロレタリー』はモスクワ委員会とペテルブルグ委員会の——また一時は、モスクワ近接地域、ペルミ、クルスク、カザンの諸委員会の——機関紙となっていたが、事実上、ボリシェヴィキの中央機関紙であった。はじめの二〇号はフィンランドで発行された。1908年2月13（26）日から12月1（14）日まではジュネーヴで、1909年1月8（21）日からはパリで発行された。

『プロレタリー』には、レーニンの論文や短評が100以上も掲載された。ストロイピン反動期には、『プロレタリー』は、ボリシェヴィキ組織を維持し強化するうえで、すぐれた役割を演じた。第二国会の選挙のときには、党のペテルブルグ委員会は毎号ほぼ四千部の『プロレタリー』を労働者のあいだにながした。党生活にかんするいくつかの論文は、スターリンの指導のもとにチフリスで発行されていた、カフカーズのボリシェヴィキの新聞『チヴェニ・ツホヴレバ』（『われわれの生活』）と『ドロー』に転載された。

1910年1月の党中央委員会総会で、トロツキーの秘密の手先で助力者である「調停主義者」は、この新聞を閉鎖する決定をとおすのに成功した。

ヴィッテ国会

1906年4月27日（5月10日）に召集された第一国会のこと。総理大臣エス・ユ・ヴィッテの作成した国会条令にもとづいているので、この名がある。選挙法は反民主主義的なものであったが、それにもかかわらず、ツアーリは完全に従順な国会をつくることに成功しなかった。国会ではカデットが多数をしめた。彼らは、土地改革をふくむいろいろの改革の公約によって農民の信頼をえようとした。1906年6月8（21）日に、ツアーリ政府によって解散された。

ロシア社会民主労働党第二回（第一回全国）協議会 第11巻 P511~512

1906年11月3~7（16~20）日、タンメルフォルスでひらかれた。この協議会は、1905年12月におなじタンメルフォルスでひらかれた第1回協議会（「多数派」協議会——第10巻、75ページにたいする事項訳注を見よ）について、第二回協議会とされている。

協議会には、ポーランド、リトワニア、ラトヴィア辺区、ブンドのいろいろな民族の社会民主党が参加した。メンシェヴィキの中央委員会は、幾多の架空の組織から協議会への代表をださせ、メンシェヴィキに多数を保証した。こうして、メンシェヴィキは、ブンドをあわせて、32名の代議員のうち18名を確保した。

議事日程はつぎの五つであった。（一）選挙カンパニア、（二）党大会、（三）労働者大会、（四）黒百人組およびポグロムとの闘争、（五）パルチザン行動。

第二国会への選挙活動の問題について、協議会は四つの報告を聴取した。ボリシェヴィキ的政綱を擁護し、カデットとのブロックに反対して、レーニンが演説した。メンシェヴィキとブンドは、カデットとのブロックを擁護した。18 票対 14 票で、メンシェヴィキの決議が採択された。この決議に対立してレーニンは、「少数意見」を提出した。これはボリシェヴィキの政綱であって、14 名の代議員（ボリシェヴィキ 6 名、ポーランド社会民主主義者 5 名、ラトヴィア社会民主主義者 3 名）が署名した。

11 月 6 日に、レーニンは、協議会の確認をえるために中央委員会が提出したメンシェヴィキ的選挙綱領草案を批判する演説を行った（草案は、11 月 3 (16) 日に、『ソツィアル・デモクラート』第六号に発表された。協議会は、選挙綱領草案に修正をほどこすという決議を採択した。同じ日に、レーニンは、討論のさい、臨時党大会の召集を支持する発言を行い、「労働者大会」のための煽動の問題を、党規律違反の問題として審議することを主張した。『地方における選挙カンパニアの統一について』という決議を確認するさい、協議会はレーニンの修正を採り入れた。決議の本文とその修正文とは、レーニンの論文『カデット化しつつある社会民主主義者との闘争と党規律』のなかに引用されている（本巻、323~328 ページ）。協議会は中央委員会に諸決議の草案と少数意見をすべて協議会についての報告のなかで発表するように委任した。しかし、メンシェヴィキ的な中央委員会は、協議会の決議しか発表せず、ボリシェヴィキの少数意見を削除した（『ソツィアル・デモクラート』第七号）。

協議会の活動にたいするレーニンの批判は、前記の論文のほか、『カデットとのブロックについて』（本巻、309~323 ページ）でなされている。

社会民主党の軍事組織と戦闘組織

1905 年に、とくに第三回大会（四月）後につくられはじめた。軍事組織と戦闘組織の会議は、1906 年 3 月にモスクワでひらかれたが、警察にかぎつけられ、参加者は逮捕された。1906 年 11 月には、ボリシェヴィキの発案によって、タンメルフォルスで会議がひらかれた。会議には、議決権をもった 19 名の代議員と評議権をもった 79 名の代表員が、11 の軍事組織と 8 つの戦闘組織を代表して出席した。会議はつぎの問題を審議した。代議員の報告、現情勢にかんする報告、モスクワの 12 月武装蜂起にかんする報告、セヴァストーポリとスヴェアボルグの 11 月蜂起にかんする報告、武装蜂起における党の任務にかんする報告、将校のあいだでの活動の件、その他。